

研究助成に係る経費を基金化したことによる効果について

研究助成経費を基金化したことによる効果について、最先端研究開発支援プログラムの研究課題に係るフォローアップの一環として、研究支援担当機関を通じ聴取したところ、その内容に関しては、研究遂行上の効果と事務処理上又は経理上の効果とに大別され、それぞれ下記のような点が挙げられる。

(1) 研究遂行上の主要な効果

研究遂行上の主要な効果としては、年度をまたいだ物品購入や契約等による研究実施の効率化、年度の区切りに左右されない計画的な研究の実施、柔軟な人件費の執行による優秀な人材の確保、突発事態への柔軟な対応が可能などの点が挙げられる。具体的な事項としては以下のとおり。

- ① 物品購入等の発注・納品等が年度をまたいで可能となり、年度末での納入期日が未定、若しくは納入に期日を要する場合でも発注ができ、研究実施の効率化が図れる。
- ② 委託研究契約や役務契約に関して年度をまたいで契約期間を設定でき、また複数年度に渡る委託契約が可能になったので、タイムリーな契約が可能となる。
- ③ 年度の区切りにとらわれずに、研究進捗に応じて、必要な時期と課題に研究費を投入できることが、結果的に研究成果の創出に関しても良い効果を与えている。
- ④ 研究者の年度ごとの予算管理の負担がなくなり、研究成果を出すことに集中できるようになり、研究パフォーマンスが向上する。
- ⑤ 研究員等の雇用を全研究期間において計画的に行うことができ、また研究費から前倒しで必要な人件費を支出できることにより、優秀な人材を確保することができる。
- ⑥ 年度末に機器が故障するなどの突発的な事態にも、年度内の修理完了の可否を確認することを要さず修理を依頼することができるようになる。
- ⑦ 当初想定しない事象（計画遅延、トラブル等）があった場合にも、柔軟に人材・機材の対策が可能であり、研究開発をより確実に推進できる。

(2) 事務処理上又は経理上の主要な効果

事務処理上又は経理上の主要な効果としては、物品調達 of 効率的執行、年度末の事務処理の軽減、政府調達などの高額設備備品購入手続きの簡素化などの点が挙げられる。具体的な事項としては以下のとおり。

- ① 年度の制約にとらわれず、必要なものを必要な量だけ必要な時期に調達することが可能であるため、研究費のより効率的な使用につながる。
- ② 年度末の予算調整事務、繰越関係事務等が大幅に軽減される。
- ③ 政府調達などの高額設備備品購入手続きについて、年度区切りに係る制約にしばられることなく調達手続きが可能となる。
- ④ 保守契約、ソフトのメンテナンス契約等について、年度をまたがって契約でき、更新手続きが軽減される。

(3) これら平常時における効果のほか、東日本大震災による研究設備・施設等の被害の復旧対応に関しても、

- ① 今回の震災被害による納期遅延対応にあたっては、年度区切りにとらわれないう予算執行管理が可能であることで、柔軟かつ効率的な対応が可能となった。
- ② 予算要求をしなくても全体調整の中で、迅速な修理費用等の支出が可能であった。

等の点が基金化の効果として挙げられている。

なお、以上のような基金化の効果が示されている中で、基金化の効果を実効的に発揮させていくためには、補助事業者の責任として、各研究支援担当機関の執行管理責任体制が適切に整備され、それを機能させていくことも求められる。